

Rotary

THE MAGIC
OF ROTARY

2024～2025年度 ステファニー・A・アーチェック RI会長テーマ

WEEKLY BULLETIN

2024年9月26日(3512例会)(創立73周年) 呉ロータリークラブ週報 NO.3426

■呉 RC 2024～2025 年度テーマ 「時代と共に、未来へ進もう=DX・見える化に取り組もう=」

会 長 長 行 事 義 人
副 会 長 石 田 直 樹 幹 事 佐 藤 政 秀 会長エレクト 山 村 貞 夫
直 前 会 長 大 上 功 会 計 勝 坂 省 吾 会 場 監 督 太 刀 掛 祐 之

(事務局) 〒737-0045 呉市本通4丁目8-12 (例会場) 〒737-0051 呉市中央1丁目1-1 呉阪急ホテル
呉商工会議所ビル南館7階 705号室 ☎(0823)20-1111 FAX(0823)20-1120
☎(0823)24-4411 FAX(0823)21-5692 (例会日時) 毎週木曜日 12:30～13:30
E-mail▶kure3rc@urban.ne.jp HP/URL▶http://www.kurerotaryclub.jp My Rotary▶https://my.rotary.org/ja/user

今週のメインプログラム

9月26日(木)

出席・プログラム委員会担当例会
「呉のお祭りと亀山神社の歴史」
太刀掛 祐之 君

次週のメインプログラム

10月3日(木)

広報・クラブ週報委員会担当例会
「中国新聞社の挑戦」
外部講師
中国新聞社 社主兼常務取締役
山本 慶一朗 様



Facebook



Home page

第3511例会記録【9月12日(木)】

【プログラム】 18:00～ 点鐘

ロータリーソング「奉仕の理想」

お客様紹介

武田 明代 さん 入会式

(推薦者 明神 博君・志々田 幸治君 大塩 俊君)

(アドバイザー:明神 博君)

推薦者 明神 博君より武田さんのご紹介

長行事 義人 会長より記念品の贈呈、歓迎の挨拶

武田さん ご挨拶

配属は親睦活動委員会

会長挨拶 長行事 義人 会長

委員会報告

幹事報告 佐藤 政秀 幹事

S・A・A

例会終了 点鐘

懇親会開始 18:15～

(司会:親睦活動委員会 森本 華苗 委員)

委員長挨拶 藤井 聖 委員長

乾 杯 大上 功 直前会長

～歓談～

アトラクション

「書道パフォーマンス with 音戸清盛太鼓」

～歓談～

「テーブル対抗ジェスチャーゲーム」

懇親会終了 ロータリーソング「手に手つないで」

閉宴挨拶 奥原 祥司 直前副会長

閉 宴

【出席率】 前々回 例会取消 今回79.17% (会員75名・欠席15名・免除3名)

【来 客】 ◇会員ご家族 大上 容子 様、大之木 展子 様、奥原 由希子 様、奥原 幸 様、佐々木 敏子 様、
志々田 智子 様、武田 洋子 様、長尾 宏子 様、中崎 菜月 様、中崎 月乃 ちゃん、中野 静 様、
中野 鈴音 ちゃん、中野 咲弥花 ちゃん、明神 明子 様

【他クラブ出席者】 ◇日下君 (9/12 愛知友愛ロータリークラブ) 1名

【欠 席 者】 ◇青山・石田・稲葉・大塩・日下・繁田・菅原・武田(信)・太刀掛・谷口(好)・平原・古川・増岡・
三宅・山村君 15名

【出席免除者】 ◇宇都宮(五)・海生(孝)・武田(保)君 3名

【委員会報告】 ◇青少年奉仕委員会 岡本 太 委員長… 9/14 地区補助金事業のご案内

【S・A・A】 ◎ニコニコ基金金額 0円(累計金額 368,000円)

呉ロータリークラブ入会にあたって

佐藤 裕宣



歴史と伝統の呉ロータリークラブ。街のオールスター、ピンクのポロシャツ軍団の一員としてお迎えいただき、ご紹介いただきました江山さま、三宅さまをはじめ会員の皆様にまず心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、ここでは少し、小生の生い立ちと「奉仕」との関係を申し上げたいと存じます。江山さまより入会時にご紹介いただきました母校には『Mastery for Service (奉仕の人となりなさい)』というスクールモットーが掲げられております。中学校より在籍しておりました同校はプロテスタント系の私立校であり、毎日業間(10:10~40)に礼拝の時間があり、月に一度献金を実施されておりました。当時、毎月のお小遣いの中から財布を眺め、悩みながら献金袋に小銭を入れておりました。この献金は同校より親交のあるインドの寒村部へ井戸を設置するために使われるとのことでしたが、あまり実感もわからずに日々を過ごしておりました。そんな中で転機が訪れたのは中学3年生のインドへの親善訪問でした。過去には井戸を設置する土木作業を実施に行っていたようですが、同訪問の目的は寒村部へ寄贈した井戸の視察。直径10mほどの手動の

井戸が村人の生活用水として現役で稼働していた景色、そして村の中学校を訪問して歓迎を受けた時、お小遣いの一部が生きている様な気になり、少し誇らしい気持ちになったことを未だに記憶しております。

加えて、毎年の恒例として『死を待つ人の家』を訪問。事前学習で同施設はカルカッタに設立され貧困や病気で死にそうになっている人の最後を看取るためと聞いており、全ての人に平等に訪れる「死」の場を屋根のある場所で迎えさせたいとの願いが具現化したものと聞いていましたが、実際駅前周辺でバスが立ち往生する様に路上生活者が横たわっている現実を目の当たりにし、中学生ながらに胸を痛めておりました。そんな中での施設訪問。ここに大きな幸運はありました。それはその施設の創始者で後にノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサに直接面会を果たすことが出来たのです。訪問した私たち全員と握手を交わされ瞳を見つめられましたが、その真っすぐで透き通った碧い眼差しは力強く、彼女の人生が如何に公平な行いによって成り立っているかを感じさせるもので未だに忘れぬ機会となりました。帰国後から今日に至るまで小生にとって「奉仕」とは美徳であると心に刻み込まれた魂が震える機会となりました。

最後に、先般大之木精二パストガバナーがロータリアンとして魅力的かどうかと発言されました。小生は例会の際、先輩から話かけて頂けることに感動しております。新参者であり若輩者ではありますが、そのような先輩方に一步でも近づけるよう日々精進して参りますので引き続きご指導賜りますよう宜しく御願いたします。